

# 粘液線維肉腫（ねんえきせんいにくしゅ）

## 粘液線維肉腫について

粘液線維肉腫（Myxofibrosarcoma）は、主に高齢者に発生する悪性の軟部腫瘍の一種であり、軟部肉腫の中でも比較的発生頻度が高い疾患です。本腫瘍は粘液成分を含む間質を特徴とし、病理学的には紡錘形細胞や多形性細胞の混在が見られます。局所再発率が高く、再発を繰り返すことが多いため、適切な切除と術後の慎重な経過観察が求められます。悪性度は様々であり、低悪性度のものから高悪性度のものまで存在します。

## 疫学

粘液線維肉腫は、軟部肉腫の中でも高齢者に比較的多く認められ、特に60～70代にかけて発症率が高いと報告されています。性差は大きくありませんが、男性にやや多い傾向があります。全体としては比較的まれな腫瘍ですが、近年は高齢化に伴い患者数が増加する可能性が指摘されています。なお、罹患率は人口10万人あたり数人程度とされますが、正確な数値は報告により差があります。

## 発生部位

粘液線維肉腫は、主に四肢、とくに下肢の皮下組織、筋膜や筋肉内に浸潤するように発生することが多い疾患です。体幹や上肢にも発生することがありますが、頻度はやや低いとされています。表在性に発生することが多いため、患者さん自身が皮下のしこりとして自覚されることもあります。

## 症状について

粘液線維肉腫は、初期段階では痛みを伴わないしこりとして出現することが多く、自覚症状に乏しいのが特徴です。腫瘍が徐々に増大するにつれて、圧迫症状や疼痛を伴うことがあります。特に皮下に発生する場合、皮膚が赤みを帯びたり、潰瘍を形成したりすることがあります。

## 診断について

診断の際は、まず身体所見に加えて MRI や CT などの画像検査を行い、腫瘍の大きさや広がり把握します。確定診断には生検による病理組織検査が必要となります。

## 治療について

治療の基本は外科的切除であり、他の悪性軟部腫瘍と同様に広範切除（腫瘍の取り残しがないように、周囲の健常な組織と一塊にして腫瘍を摘出すること）が推奨されます。浸潤性（周囲へ浸潤する能力の高い）軟部肉腫の代表的腫瘍であるため、局所再発率が高く、手術前や手術後に放射線治療を追加される場合があります。他の悪性軟部腫瘍と同様、悪性度や腫瘍の発生部位、腫瘍の大きさや患者さんの状態に応じて化学療法を行うことがあります。

## 執筆者

- 氏名： 酒井 智久（さかい ともひさ）
- 所属医療機関： 名古屋大学附属病院
- 診療科： 整形外科
  
- 氏名： 西田 佳弘（にしだ よしひろ）
- 所属医療機関： 名古屋大学附属病院
- 診療科： リハビリテーション科